

「キツネとの対話(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

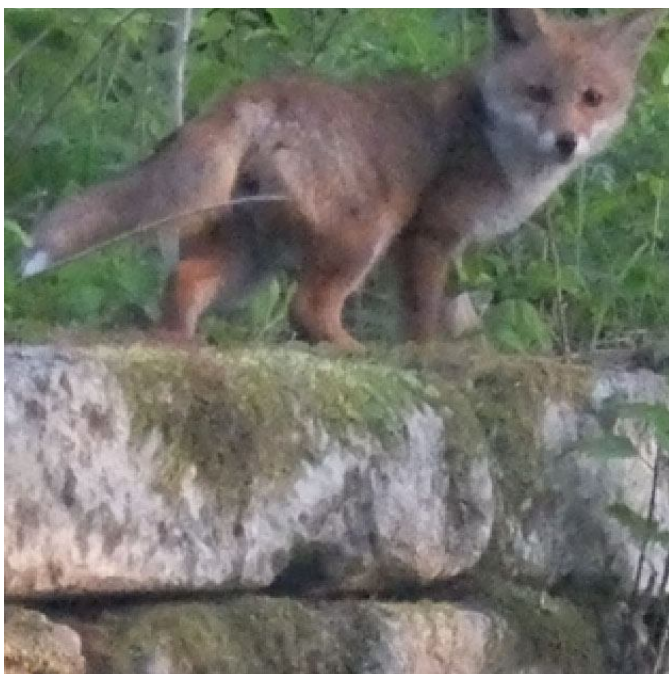
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢のこのキツネ、私が滞在する週末には、必ず庭に現れて、長い時は1時間近くウロウロしている。特に餌をあげたりしてるわけではないのだが、何故か人懐こいキツネである。



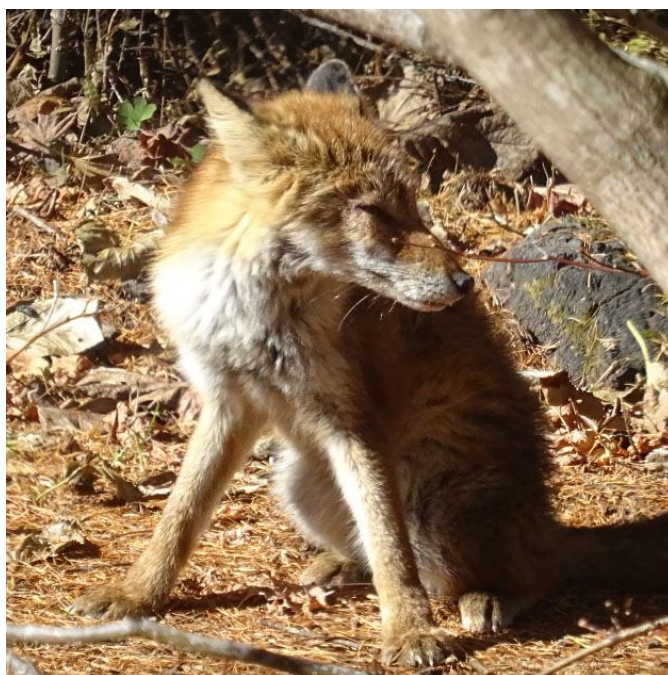
晩秋で餌が少なくなったのか、どうも痩せているように見える。いや、野生のキツネなんてこんなものだろうか？



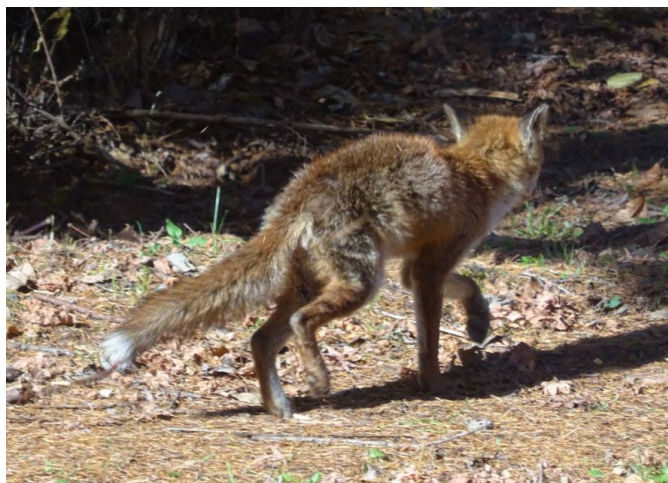
これは少し前に、山荘近くの石垣にいた子ギツネである。親ギツネと時々はぐれて、私についてきたこともある。飛んでいる虫を、ジャンプして捕えるのが得意だった。私は、最近山荘に現れるキツネは、この子ギツネが育ったもののような気がしてきた。



キツネの仕草は面白い。カエデの枝越しに、毛づくろいをしているのが見えた。「少し右に寄って」と思っていたら、よく見える場所に移動してくれた。



この日は天気が良く、気持ち良かったのだろう。「おすわり」をしたまま、終いには眠ってしまった。



陽だまりでしばらく「昼寝」を楽しんだあと、北側の森の方へゆっくり去っていった。餌はあげられないが、また昼寝に来るといいだろう。